

「春蘭の里」の取り組み

春蘭の里の誕生

春蘭の里の大きな夢、それは教育旅行、一般客等の受け入れで若者が戻ってくる農村の再生である。



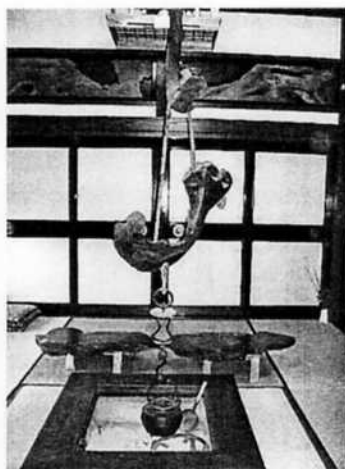
春蘭

奥能登の真ん中に位置し能登空港から約10分足らずの所にある地域であり、黒い瓦に白い壁の家並みが揃う奥能登の山中の伝統的な建物が多く見られる地域でもある。

グリーンストック、水と緑を後世に引き継ごう、きつとみつかるとは、あなたの探し物、水と緑の自然を最大に生かした村づくり、自生している春蘭をテーマに村おこしを始めたのが春蘭の里実行委員会である。

能登町グリーンツーリズム推進協議会会長

多田 喜一郎



田舎裏のある居間

その地域で13年前、限界集落のこの地域が10年経ったらどうなるとの発想から、構成員が行政に頼らない民間100%の春蘭の里実行委員会が生まれた。

しかし今から振り返り思うのは、行政の援助も必要不可欠であるということだ。

直接ではなくても間接的な援助というべきであろうか。

行政もこの組織は本気か否か、つまりやる気度が果たしてどれだけあるのか。お互いの接点を模索するのである。

私達の里は行政の直接事業はないが、何か付帯した改善事項が非常に多くあり有難いのである。

何度も書くが、やる気の本気度を行政は見ているのである。

いかに行動を起すか、いかに強いリーダーがいるかである。

一途に走るバカ者の必要性、行動力である。当初は会員7名で農産物の販売で一億円を目指したがうまくいかず、民宿を開き都会から人々が来てくれることを期待して始めたことが現在に繋がったのである。



輪島塗の膳でおもてなし

交流人口と定住人口の増加を目指し、平成9年に農家民宿第一号が誕生したのである。地域の特色を出すため「一日一客」、地域の食材と手作りの箸、輪島塗の膳でもてなしてある。

その後石川県のグリーンツーリズム促進特区認定で、平成15年に農家民宿が4軒増加、18年には集落の学校が廃校になるといいう時、小学校区の皆さんが学校の建物だけは何としても残すべき。

なぜならば学校は100余年に渡り地域の中心的な存在だった。「だから何としても再利用して残すべきだ。」「ただ壊すだけでは絶対にダメ。」との声により廃校の宮地小学校が「交流宿泊施設コブシ」として完成し、よみがえりを見たのである。

小学校区でNPO法人を作り、指定管理者となり（管理料金は0円であるが）、経営は全室オーナー制としオーナー料で運営を図っている。

また月々の事務、管理については高齢者が自らの健康管理と言うこともあり非常に安い日当手当て協力を得ているのである。

平成19年には農家民宿も10軒増加し15軒となり、また21年には15軒増加し合計30軒。これで200人を受け入れる体制が整ったのである。

現況は、13年前0人からの始まりが昨年度は3,200人の来客、今年度は東京の専門学校生、千葉県の学校及び地域の学校、さら



苗を真直ぐ植えるための昔ながらの農作業体験

に中国からの教育旅行7団体（お盆までに）そして一般客の受け入れもある。

高齢化社会がどこでも叫ばれているが、春蘭の里の地域の資源

は、元気な高齢者であると考えている。高齢者の皆さんの笑顔とプラス思考が一番の財産、また地域の昔話が聞ける生きた財産である。

春蘭の里での近況ニュースは80歳で普通車の運転免許をとり、二千万円ちかくをかけて家を改修した方もある。

民宿に改造を、なぜならば今の元気なうちに都会に出ている跡取りが帰って来て生活が出来る様に、また、都会の児童・生徒や一般のお客様と楽しく会話をし、家にいながら旅の気分を味わう、こんなエネルギーに満ち溢れる春蘭の里である。

春蘭の里の構想

春蘭の里全体構想に基づき、観光森林、観光農業等、地域全体を森林農事公園ビジネスとする。

都会人が故郷を思うような「一日一客」の囲炉裏つき民宿群を作り、自然農法、山菜、キノコ、貸しロッジ、貸し別荘などの造成により体験参加型のシステム作り、歩道春蘭の道作り。

昔、集落と集落を結び、また炭、薪などの生産のために使っていた山道の整備。この整備により体験参加型の山村の整備が可能になる。

伝説のコースの復活、休耕田の利活用（都会人の田んぼ作り・オーナー制）、自転車道春蘭の道、ふるさと会員制度により一億円産業を目指す。

さらに春蘭ドームの建設。能登空港に降りた時、春蘭ドームが春蘭の花で年中お客様を歓迎する、そんな構想である。

まだまだ道半ばであるがこの中で実行した取り組みを再度詳しく書いてみる。

特産品の開発とキノコ山構想

果実酒の開発、春蘭の育成、商標登録春蘭の里の取得、春蘭の栽培農場・ハウスの作成、イメーゾンクの作成、販売業春蘭の里の開始、清酒「春蘭の里」の完成。

この清酒は自分たちで作った米とこの地域で流れ出る清水、酒屋さんにもって行き、酒屋さんの協力で限定千本を作って頂いた。鶴野酒造の社長は地元地域おこしに協力をする、この一言で清酒「春蘭の里」の完成である。

影の大きな力だ。

大きな力と言えば私たちの構想に賛同をして5名の人が17ヘクタールの土地購入に賛同、地域の建設業の社長、お医者さん、お寺の住職等である。

この協力を得て私たちは会員の山林も含めて32ヘクタールのキノコ山の完成にこぎ着けた。今このキノコ山を中心にした取り組みに全力投球している。

実現したさまざまな春蘭の里構想

民宿「春蘭の宿」開店は平成9年、他地域との物産販売の開始（山菜・林産物）、春蘭の里のロッジ完成。このロッジは春蘭の里に来て頂いた人を選択肢のひとつとして、山中での体験型宿泊施設でもある。

北陸農政局からの地域活性化への提案モデル地域整備計画が出来、菓子製造業取得（平成14年）農産物加工業の許可取得（平成14年）。（財）まちむら機構のモデル地域全国五か所に選定。

石川グリーンツーリズム促進特区認定（平成15年）。グリーンツーリズム奥能登全国大会開催受け入れ（平成15年）。

春蘭の里水車小屋完成（田園空間整備事業）、地域づくり全国大会穴水会場受け入れ（平成16年）自然石池水路完成（田園空間整備事業）。

小型風力発電完成（平成16年里山保全）、



整備された川を利用して川遊び

民宿10軒（平成19年）農家民宿20軒増え（平成22年）30軒で完了。中日農業賞受賞（平成21年）、（財）まちむら機構「おかみさん百選」に選定、山菜加工場、愛菜市場の完成等を実行した。

教育旅行の受け入れと 農村再生の実現を目指して

現在30軒の民宿は年金プラスアルファの収入から月40万円の収入を上げ都会に出ている家の跡取りが帰って来る下地作りまた、「都会人が春蘭の里で民宿を開業」そんな夢をみる地域でもある。

「出る杭は打たれる」とのことわざもあるが、私達は打たれないほど伸びてやろうじゃないか、逆境をはねかえす強靱な志、自信を持って子供を育て社会に出し、家の跡取りが自分の分野で自信を持って働いている、そんな家族愛に満ち溢れる里。

だから都会の児童・生徒の皆さんに自らの経験を生かした体験、「勉強でなくても日本一になれるんだよ。」人生かくの如しの話しである。

逢うは別れの始めなりの言葉どおり、児童・生徒の皆さんとの別れのせつなさ、大人

廃校の宮地小学校が宮地交流宿泊施設として完成（地域づくり交付金）、親小公園（宮地川）完成、土木の親小空間整備事業、（財）まちむら機構の農村漁村農家民宿に係る取組み事例十選に選定、（平成18年）伝統文化民俗芸能保存「みのむし祭り」の復活、全国半島振興フォーラム全国大会開催（平成19年）農家



はさ掛けをする生徒たち



収穫は丁寧に



皆で協力して農作業体験

も子供も心と心がぶつかりあう本当の感動も味あわせてもらえる。

日本の将来を担う若者を育てるための一助、そして能登空港から10分足らずで訪れることが可能な地域「春蘭の里」、日本の原風

景が残るこの地域が教育旅行で訪れる児童・生徒で一杯に満ち溢れることがメンバー一同、地域一同の願いである。

無責任な人達のマイナスイメージ的思考的な発言、批判。そんな事にお付き合いを頂くのはプロジ

エクト完成の後でもいいのではないだろうか。

まずは志、計画を成し遂げてからの議論である。言葉でつぶされることなく将来の日本の農村の再生を信じてである。